

先輩から①「実態把握で気を付けていること」

1 家庭との連携

苦い思い出ですが、学校での一面だけを見て「できない」と思い込み、指導していたら、保護者の方から「家では、できています」と言われたことがありました。自分では分かっていたつもりだった「家庭との連携」の大切さを痛感した瞬間でした。児童生徒と一番長く一緒に過ごしているのはご家族です。好きなもの嫌いなものから、考え方や行動のパターンまで、たくさんの指導のヒントがご家族との話の中にあります。年度始めだけでなく、1年中ご家族と話をし、話を聞くことが大事だと思います。

2 肢体不自由のある児童生徒の実態把握で私が最初に押さえていること

(1) 姿勢について

「良い姿勢」を、①安定している ②疲れにくい ③作業がしやすい ④気持ちが落ち着く 姿勢と捉え、以下の点に留意して見えています。

- ・どこで体重を支持しているか
- ・骨盤の位置（体幹と下肢の関係）はどうか
- ・肩甲骨の位置（体幹と上肢の関係）はどうか
- ・頭部と下あごの位置はどうか

また、日常生活動作等について支援が必要になる場合は、以下の二点について探り、押さえるようにしています。

- ・支える身体の部位（背中，肩，肘，手首 など様々です）
- ・教師のポジション（児童生徒の前，後，横，立って，しゃがんで など様々です）

(2) 「見え」について

- ・教師と同じ物が、同じように見えているか

※見えにくい、切れて見える、特定の色や文字などに目が行き注目する、注視や追視が難しいなどのケースがありました。

- ・色、形、距離感などを捉え、再現できるか

※板書された「上から下」への字の流れが、ノート筆記するとき「向こうから手前」に上手に変換できず、書写が難しいケースがありました。

※計算等は問題ないのに、図形の構成ができない、グラフが読めない、縦軸・横軸を見ながらポインティングができないなどのケースがありました。

- ・明暗の変化、点滅、彩度の変化などにより、見え方に変わりはないか

(3) 「聞こえ」について

- ・鳴らす場所、大きさ、高さ、音質、歌詞のあるなし、擬音などの語感やリズムのあるなしなどにより、反応は変わらないか

- ・苦手な音、好きな音はないか

(4) 食事について

- ・アレルギーの有無

- ・家庭での食事の様子（座り方、使用食器、時間、水分の摂り方 など）

- ・摂るべき必要量と1回に食べられる量（時間の設定と小分けの必要性を検討する）

- ・好き嫌い

- ・食事の方法や食形態、気になる食べ方（補助具の使用、介助の必要性を含む）

- ・色、形、香り、食感、周りの人との会話、満腹感などを楽しむことができるか